あらすじ

太平洋戦争間近の昭和十五年、軍靴が忍び寄り、世の中は戦時色に染められつつあった。そんな時代、浅草六区のレコード店『オデオン堂』では、小笠原家と同居人たちが、音楽をこよなく愛し明るく懸命に生きていた。しかし近頃ご近所の目が冷たい、「非国民！」の叫びとともに店に石が投げ込まれることも。その理由は、長男の正一が脱走兵だという疑いだった。噂をどうにか振り払おうと、母・ふじは突拍子もない策を思いつく。そして、小笠原家には新しい家族が加わることになったのだが……。

『人間の存在は奇跡そのもの……』井上ひさしが、人間への限りない信頼と愛をこめて描いた昭和庶民伝、井上流ユーモアとなつかしのメロディーをまじえ、自由と平和の大切さ、反戦平和を訴えます。

スタッフ

作……井上ひさし
演出……作間しのぶ
演出助手……廣澤 昭典
装置……石戸谷 孝
照明……佐藤 牧人（ノースステージ）
音楽協力……盛 隆
効果……寺島 雅人
衣裳……三上 恒子
小道具……咲間 まみ
舞台監督……對馬裕美子
制作……伊藤 剛
……伊藤かよ子
ポスター画……高代 彩生

キャスト

小笠原 信吉……鎌田 紳爾（音楽家）
その妻 ふじ……作間しのぶ
長男 正一……伊藤 剛
長女 みさお……咲間 まみ
その夫 源次郎……健部 伸明（作家）
竹田 慶介……平田 成直（津軽カタリスト）
憲兵伍長……権藤三郎
……半 覚醒
森本 忠夫……山本 朝美（津軽カタリスト）
国防婦人甲……伊藤かよ子
国防婦人乙……音琴 未森（津軽カタリスト）
電報配達の男……秋本 秀樹

令和８年度　第36回青森県民文化祭　分野別フェスティバル公募（演劇）

主催：青森県民文化祭実行委員会
（一般社団法人青森県文化振興会議・青森県・弘前市文化団体協議会ほか）

後援：青森県教育委員会・青森市・青森市教育委員会・弘前市・弘前市教育委員会・藤崎町教育委員会・東奥日報社・陸奥新報社・デーリー東北新聞社・河北新報社・読売新聞青森支局・朝日新聞青森総局・毎日新聞青森支局・NHK青森放送局・RAB青森放送・株式会社青森テレビ・青森朝日放送株式会社・株式会社エフエム青森・青森ケーブルテレビ株式会社・株式会社エフエムむつ

第57回弘前市民文化祭

主管：劇団弘演
主催：弘前市民文化祭実行委員会　/　共催：弘前市　/　後援：弘前市教育委員会